

クヌギ林の里山の維持再生

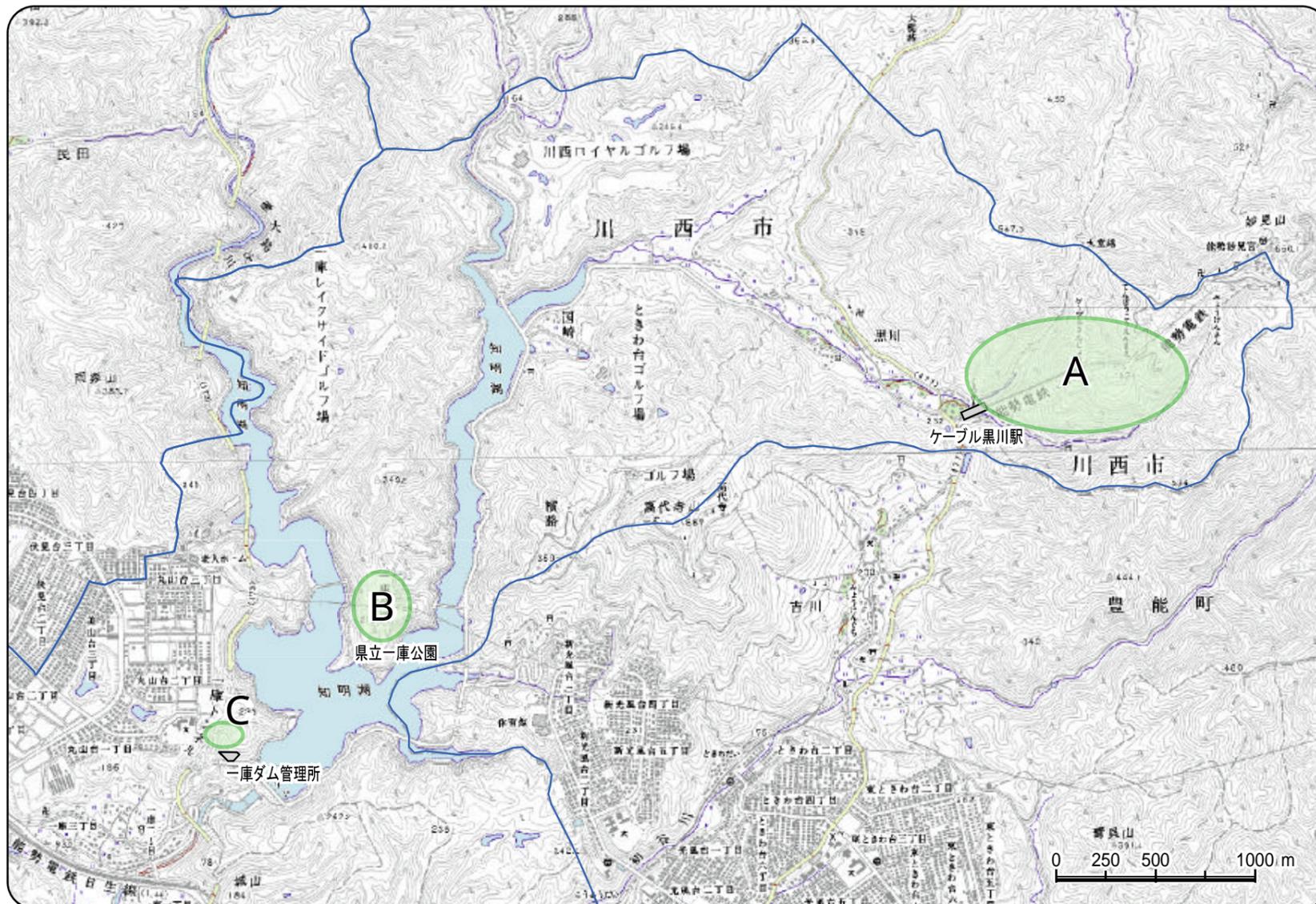
一庫・黒川地区における試行事業（案）

一庫・黒川地区における基本的方針

池田炭の生産地として数百年の間、林の中での人の営みが続けられてきました。生きた里山が現在も残り、特徴あるモザイク景観とともに、豊かな生物相を育んでいます。また、ここには特色ある活動の拠点や人材があり、それぞれの特性を活かし、日本一の里山の保全と再生のもと、文化・景観・生物多様性の維持、向上を目指します。

A.黒川地区	B.一庫公園	C.一庫ダム管理所
ボランティアとともに、企業、行政 3者の協働による、生きた生産林・里山の保全	県立一庫公園におけるボランティアによる見本林の整備や環境学習・広報	一庫ダム管理所所有の土地を活用したクヌギ林の再生

日本一の里山の保全と再生



A.黒川地区【生きた生産林としてのモザイク景観の保全】



生きた日本一の里山を身近に見ることができるのは、ここだけです。ボランティアと地元との協働により、日本一の里山のシンボルとして、展望できるこの場所で生産林の保全、維持を目指します。

活動主体：ひょうご森の倶楽部、川西里山クラブなど
 活動内容：生産林として活用するためのクヌギ林育成や森林整備など
 協力：今西氏、土地所有者、能勢電鉄（この場所の土地提供、広報などに協力いただく）
 課題：土地所有者の理解とこの山を効果的に活用するためのゾーニングと整備計画づくり

B.一庫公園【見本林整備の試行や体験による環境学習と広報】



一庫公園内に広がるクヌギ林は、恰好の有効資源です。公園、ボランティアによる見本林の試験的整備や炭焼き体験など環境教育、広報の場としての活躍が期待できます。

活動主体：県立一庫公園、ひとくらクラブなど
 活動内容：公園内における薪炭林景観の再生のための見本林整備の推進および体験・学習イベントの開催
 協力：今西氏、来園者
 課題：整備面積が広がり、作業量が拡大した場合の対応やイベントのメニュー出しや実践

C.一庫ダム管理所【苗木植栽によるクヌギ林再生と広報】



菊炭生産のメッカであった一庫。その入り口に当たる場所に、ダム管理所があり、まとまった面積の土地を所有しています。その場所を活用し、クヌギ林の再生の行います。

活動主体：一庫ダム管理所
 活動内容：管理所の隣接する斜面地へのクヌギ苗木の植栽と維持管理
 協力：川西里山クラブなどのボランティア団体など
 課題：クヌギ苗木植栽によるクヌギ林再生や現存するクヌギ林の維持管理など計画やその実践（クヌギ苗木植栽は2005年11月に実践済み）。